



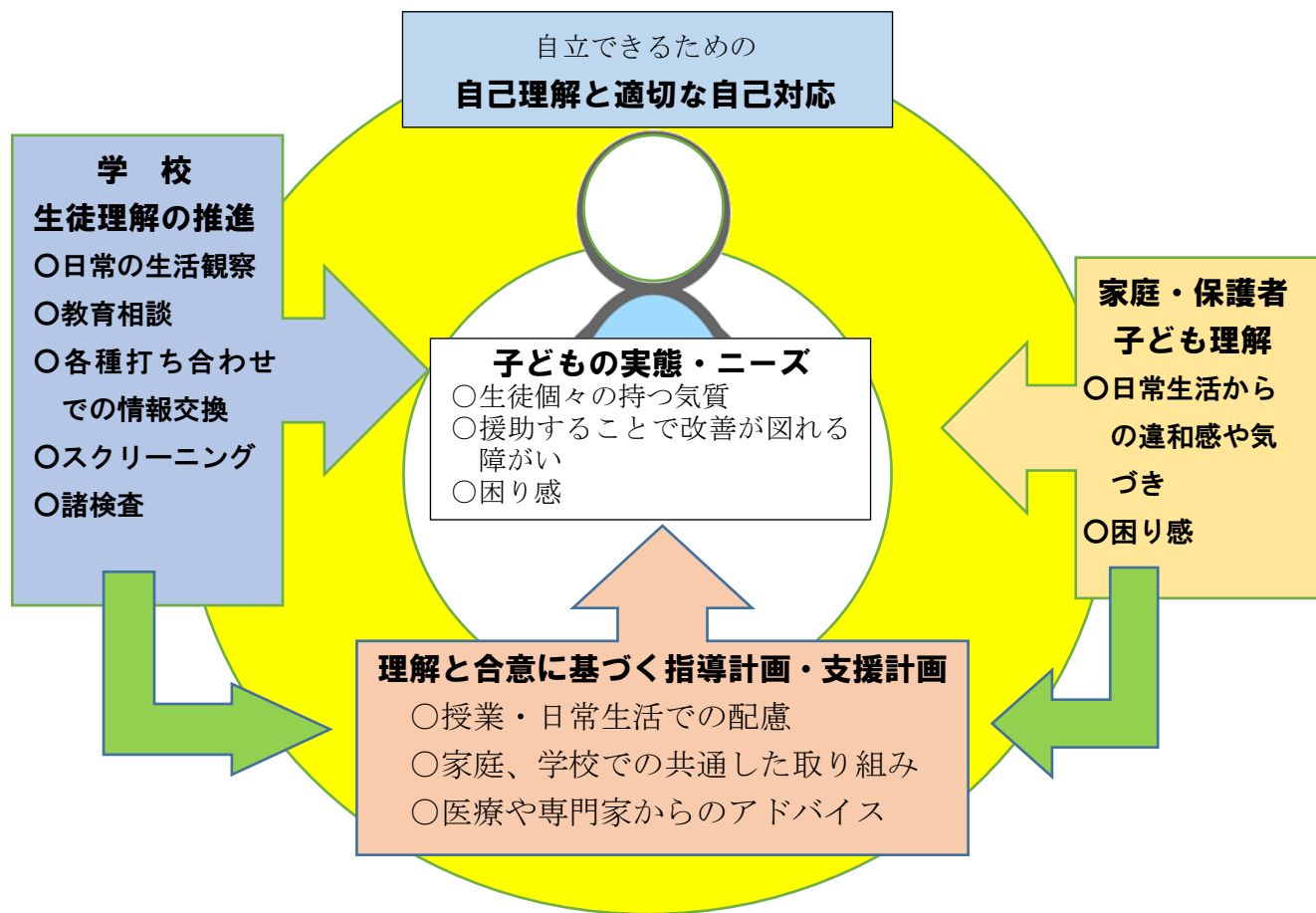
# 小国中だより

小国町立小国中学校  
令和2年5月14日  
文責 八木幸夫

## 一人ひとりを大切にする教育

小国町では児童・生徒一人ひとりを大切にする教育、特別支援教育に力を入れています。一人ひとりの教育的ニーズを把握し、生徒の持てる力を高めて生活や学習上のつまづきを改善するために様々な取り組みを行っています。効果的に特別支援教育を行うことで、学級での細かい指導や学力向上につなげたり、いじめ・不登校等の問題行動の未然防止にもつなげる大切な取り組みです。小国町そして小国中学校が推進する一人ひとりを大切にする教育（特別支援教育）についてご理解とご協力をお願いします。

### 生徒一人ひとりを大切にする特別支援教育



### そこで…… 小国中学校の一人ひとりを大切にする教育

生徒一人ひとりが抱える課題を多方面から共感的に理解し、専門家の助言を受けながら適切な対応策（支援計画、指導計画）を検討し、具体的な指導が行えるよう、以下の3つの重点に特に力を入れ努力しています。

〈裏面に続く〉

## 重点1 生徒理解を推進する

- 日常生活の観察・・・各種打ち合わせでの情報交換
- 家庭との情報交換
- 小国小学校との情報交換
- 生徒一人ひとりの指導記録の蓄積
- 専門家によるスクリーニングとその判断
- 諸検査の結果

## 重点2 指導方針、指導計画の明確化

- 生徒一人ひとりについての支援会議の実施
- 専門家による助言
- 学年毎の特別支援委員会の実施
- 支援計画、指導計画の作成
- 本人、保護者との話し合い

## 重点3 指導計画に基づいた丁寧な指導実践

- 支援員、相談員の個別の支援、相談活動
- 教室、学習環境の整備
- 指導記録の蓄積
- 保護者との連携
- 医療、専門機関、専門家との連携指導

## 保護者の皆様をお願いいたします

生徒一人ひとりに個性があり、得意なこと、苦手なことがあります。子ども達の大半は日常の学習や生活体験を通して、特に大きな支障もなく成長していきます。しかし、子どもによっては、躓きを自分で解決することができず、集団の中で孤立したり、社会性を十分に身につけることができない場合もあります。幼児、小中学生の段階では、その躓きを補うための工夫や努力を大人がサポートしてあげる必要があります。思春期を迎え、自我を形成し大人になるためのハードルを越えようとする中学生の時期は、子供達が大きく変化する時期です。支援の仕方や関わり方を間違えると、非行や反社会的な行動に走る場合もあります。

### そのために保護者と学校の共通した子ども理解が大切です。

お子様のよりよい成長のために、保護者の皆様とこれまで以上に連携を図って行く必要があると認識しております。具体的には三浦光哉先生（山形大学）のスクリーニングによる判断に基づき、ご相談が必要な場合はご連絡を申し上げます。今年度も2回のスクリーニングを予定しております。第1回目は6月2日実施予定です。スクリーニングの結果、ご家庭との情報共有、指導についての話し合いが必要と判断された場合は、担任からご連絡を申し上げます。

また、大御 均先生（臨床心理士）が来町する際のスクールカウンセリングについてもご案内を申し上げます。今年度第1回のスクールカウンセリングは5月25日（月）午後2時から5時まで予定されております。5月11日の登校日に案内プリントを配布いたしました。生徒本人だけでなく保護者の方のカウンセリングも可能です。申込書に必要事項を記入いただき、担任にご提出ください。他校との調整も必要ですので、申し込み多数の場合は、希望が叶わない場合があることをご理解ください。

### 町の体育、文化施設の使用が再開されました・・・適正な利用を

新型コロナウイルス感染予防の措置として、町の体育、文化施設の開放が中止されていましたが、5月12日（火）から、町民に限って利用が再開されました。今後、生徒の皆さんも以下の点に注意して利用してください。

- 町民図書館は、本の貸し出しと返却のみとなっています。図書館での読書や学習はできません。
- 町民体育館、あいべは使用ルールを守って利用します。スポーツをするための施設ですので、ロビーやアリーナに集まってゲームや、スマホで遊ぶために利用することのないようにします。3密回避、咳エチケット・マスク着用は当然です。